

全国首長九条の会ニュース

2022年5月26日 第37号

ホームページ：<https://kubicho9jo.com/>

●連絡先：〒101-0065 東京都千代田区西神田2-5-7 神田中央ビル 303 九条の会気付 ☎03-3221-5075
fax03-3221-5076 メール：sppn3av9@hyper.ocn.ne.jp 口座番号 00190-4-635731 (全国首長九条の会)

【5月3日、「滋賀首長九条の会」が結成されました。事務局長で元滋賀県日野町長の藤澤直広さんに経過や発足式の状況などについて寄稿していただきました】

滋賀首長九条の会が発足 現職・元職19人が参加



松中藤発足式参加者（左から）
島澤、平岡、宇野、村西、
山尾、武村、橋本、
山中、山崎各氏
(写真提供 滋賀民報社)

日本国憲法が施行され75年。憲法の精神をいかすこと、とりわけ、9条を守りいかすことが益々大切になっていることから、滋賀県において、「首長9条の会」を結成しようと「全国首長九条の会」(滋賀県は7人)の参加者、滋賀九条の会の有志らが集まり、今年1月から結成の準備を進めてきました。全国首長九条の会の共同代表である武村正義元滋賀県知事にご相談したところ、「大事なことだから、できるだけ幅広くしっかりと進めて欲しい。」と提起されました。

まず、呼びかけ人に、武村正義元滋賀県知事、嘉田由紀子元滋賀県知事・現参議院議員、平尾道雄米原市長、中嶋武嗣元甲賀市長、橋本健元びわ町長、村西俊雄元愛荘・米原町長に就任いただきました。3月中旬、呼びかけ人の連名で現職（20人）、元職の首長（約60人=概ね平成の合併当時の首長）の皆さんに呼びかけました。呼びかけは、呼びかけ文の郵送とともに可能な場合は自宅を訪問し、または電話で依頼しました。

4月15日には、県庁記者クラブで5月3日に発足式を行う旨の記者会見を行いました。記者から熱心な取材があり大きく報道されました。その時点では16人の参加でしたが、発足式まで呼びかけを続けて19人の参加となりました。県段階の首長の会結成は、全国で7番目、最大の組織規模になりました。

5月3日、大津市生涯学習センターで「滋賀・憲法の集い」が開催され、第一部で「滋賀首長9条の会」

賛同者が出席しました。

平尾米原市長の司会で始まり、武村元滋賀県知事が開会あいさつの後、「憲法9条を守りいかす一点で一致し運動をする」との趣旨の規約と役員体制を確認し、「県民の皆さんへのアピール」(別掲)を採択しました。嘉田元滋賀県知事からのメッセージ、滋賀県九条の会の近藤学事務局長の祝辞が述べられ、会場の約200人の参加者から歓迎の拍手が送られました。

ウクライナの状況に心が痛みます。この事態に乗じて、「国連、憲法9条は無力」などと政府関係者や一部の政治家は「専守防衛」を踏み外す「敵基地攻撃能力保有」の検討やアメリカとの「核共有」＝非核三原則の見直しまで言及しています。しかし、第二次世界大戦の痛苦の経験から導き出された「国際紛争の解決の手段として武力による威嚇や武力行使の禁止」を求める国連憲章、憲法9条こそ人類が歩むべき道であり崇高な精神です。

今、このような時期に、住民の生命・財産を守ることを責務とする首長、首長経験者が多数、参加されたことは、「憲法9条を守りいかそう」という声を大きく激励するものです。

今回のロシアのような武力行使、侵略行為を国際社会は許してはなりません。国連憲章、憲法9条の理念こそが平和な社会を築く確かな道です。力を合わせてこの道を歩みましょう。九条の精神で世界平和に貢献しましょう。

「滋賀首長九条の会」設立と滋賀県民へのアピール

滋賀県民のみなさん！

私たちは、住民の生命・財産を守る役割を有する首長、首長経験者として、日本が再び戦争によって国民に惨禍をもたらすことのないように、また他国を侵略することのないように、戦争放棄と戦力不保持、交戦権の否認を定めた憲法9条を守り、いかす運動をすすめるため、本日、「滋賀首長九条の会」を結成いたしました。

「九条の会」は、2004年6月10日に大江健三郎氏、澤地久枝氏など9人により設立されました。その後、各都道府県九条の会、各地域九条の会、各分野別九条の会などが設立され、現在約5000の会が活動されています。また、地方自治体の首長（現職、元職）のみなさんが、2019年11月に「全国首長九条の会」を結成され、現在129名の方が行動されています。私たちは、滋賀県において、自主的に首長九条の会の活動を進めます。

去る2月末以降、ロシアはウクライナを侵略し、第二次大戦以降、ヨーロッパ最大の「戦争」を引き起こしました。これは、国際紛争を平和的手段によって解決することを求め、武力による威嚇または武力の行使を禁じる国連憲章に明確に違反するものです。また、病院や学校はもとより、軍事施設ではない市街地等を無差別に攻撃し破壊する行為、女性や子供を含む一般市民、非戦闘員を殺害する行為は国際法に違反するものです。さらに、拷問、暴行、「大量虐殺」が報じられるなど、人権を侵す組織的な「戦争犯罪」が厳しく問われています。その上、プーチン大統領が核兵器使用を前提とするかのような発言をしていることは言語道断です。唯一の被爆国に暮らすものとして絶対に許すことができません。

ロシアに対し、攻撃を即時停止し、部隊をロシア国内に撤収するよう強く求めるものです。そして、国連等において、この侵略行為の全容が解明される必要があります。

この間、政府は2014年に「集団的自衛権の行使」を容認するなど、従来の政府見解・憲法解釈をくつがえしてきました。今また、ロシアのウクライナ侵略の事態に乗じて、政府関係者と一部の政治家は「専守防衛」を踏み外す「敵基地攻撃能力保有」の検討やアメリカとの「核共有」、非核三原則の見直しまで言及しています。

今、プーチン大統領の核先制使用の威嚇によって、「核抑止論」の破綻が明らかになりました。核兵器では核使用を抑止できません。今こそ、唯一の被爆国日本は、核兵器廃絶・禁止にこそ力を尽くすべきです。

国際紛争の解決の手段として、「軍事対軍事」、「同盟対同盟」ではなく、外交的・経済的手段を通じた平和的解決を求めます。九条の精神で世界平和に貢献しましょう。

みなさん、戦争放棄と国際紛争の平和的解決を定めた「憲法九条を守れ！」の一点で結集し、九条を守り、いかす壮大な運動を展開しようではありませんか。

そのため滋賀県民のみなさんと力を合わせて運動を進めることを表明し、本会結成のアピールとします。ご一緒にがんばりましょう。

2022年5月3日憲法記念日
滋賀首長九条の会結成のつどい

「滋賀首長九条の会」の組織（2022年5月3日現在）

1 会員（19人）

武村正義（元滋賀県知事）

嘉田由紀子（元滋賀県知事・参議院議員）

平尾道雄（米原市長） 中嶋武嗣（元甲賀市長）

西澤久夫（元東近江市長） 宮腰 健（元長浜市長）

山田亘宏（元守山市長）

宇賀 武（元能登川町長） 宇野一雄（元愛荘町長）

竹山秀雄（元竜王町長） 前田清子（元五個荘町長）

松山正己（元土山町長） 村西俊雄（元愛荘町・元

米原町長） 橋本 健（元びわ町） 藤澤直広（元

日野町長） 二矢秀雄（元余呉町長） 山岡寿磨（元

滋賀町長） 山崎義勝（元甲良町長）

中山壽勇（元蒲生町長） （敬称略 基本五十音順）

2 役員構成

・共同代表

武村正義（元滋賀県知事）

嘉田由紀子（元滋賀県知事・参議院議員）

平尾道雄（米原市長） 中嶋武嗣（元甲賀市長）

橋本 健（元びわ町長）

村西俊雄（元愛荘町・元米原町長）

・幹事

宇野一雄（元愛荘町長） 山崎義勝（元甲良町長）

・事務局長

藤澤直広（元日野町長）

*連絡先 事務局長宅

〒529-1636 蒲生郡日野町清田869

電話・FAX 0748(52)0032

当会事務局長の鹿野文永さんが5月13日急逝されました。87歳でした。突然の訃報に驚きと悲しみでいっぱいです。ご冥福をお祈りします。



鹿野さんは、元宮城県鹿島台（現大崎市）の町長を1975年から8期務められ、2008年2月、宮城県内の首長経験者10人で「憲法9条を守る首長の会」を結成し、東北各県での首長九条の会結成に努められ、2014年5月に「東北6県市町村長九条の会連合」を結成されました。その後、全国規模で首長九条の会結成に奔走され、2019年11月17日、「全国首長九条の会」を結成し、初代事務局長に就任されました。

結成にあたって、鹿野さんは、「全国の住民ともっとも密接な行政機関の長として地方政治に携わっている首長とその経験者の方がたによる『全国首長九条の会』の発足は、『9条を守れ』という国民多数の意思を体现し、各地、各分野で奮闘されている草の根の運動を励ますものと自負しております。平和国家日本を後世に引き継いでいくために、所属や立場、信条の違いを超えて、憲法9条を守り生かすために手を携えて、本結成総会を成功させてまいりましょう。」と呼びかけ、結成のつどいでの活動方針提案では、「改憲を断じて発議させない。

戦争への道は、地方自治の破壊から始まる」と力をこめられました。

ロシアのウクライナ侵略にあたっては、「言語道断。歴史を19世紀に戻すかのごとき、ロシアのウクライナ侵略には何の道理もありません。しかも、万一、通常兵器によってロシアへの攻撃を受けた場合は、核兵器をもってこれに応えるとは、狂気の沙汰。私たちは日本国憲法第九条を高く掲げ、世界の世論と声を一つにし、ロシアのウクライナからの撤兵と内政干渉の中止を強く求めます。」と述べられていました。

矢野事務局次長が通夜に参列

全国首長九条の会は、鹿野文永事務局長の葬儀にあたり、矢野裕事務局次長が通夜に参列し、みやぎ憲法九条を守る首長の会のみなさんと鹿野さんの急逝を悲しみ、遺志を継ぎ、9条擁護のため全力を尽くすことをご靈前に誓いました。また以下の弔電を送りました。

◆「全国首長九条の会」の弔電

鹿野文永様のご逝去の報に接し、あまりの突然さに驚いています。

鹿島台町長時代から憲法9条改悪の動きを憂慮し、宮城で「憲法9条を守る首長の会」を立ち上げられました。この運動は東北から全国へと広がり、19年「全国首長九条の会」結成に至りました。鹿野様は初代事務局長として運営を軌道に乗せ、ロシアのウクライナ侵略では厳しい非難談話を発信するなど、その責を存分に果たしてこられました。

住民の生命と財産を守るには社会が平和でなければならないし、その保障が憲法9条だという搖るぎない信念は、地方政治の長や経験者にとって大いに学ぶべきものでした。

いま鹿野様を失ったことは痛恨の極みですが、嘆いてばかりではいられません。私たちは戦争のない平和な社会構築のご遺志を継ぎ、9条擁護のため全力を尽くすことをご靈前に誓います。

4人の方々の追悼文を掲載します。

— 鹿野文永さんを追悼する —

「九条の会」事務局長 小森 陽一

2004年6月に「九条の会」を発足させてすぐ、宮城県のみなさんは運動方針の要を理解してくださり、県民レベルでの大きな集会と、市町村単位の地元密着型の会を連続的に開催してくださいました。事務局長として、可能な限り足を運ばせていただきました。

「宮城県九条の会」の結成集会で、鹿野文永さんと初めてお会いした時は、鹿島台町（現大崎市）の現役の町長でした。以来宮城県の各市町村での「九条の会」を結成する集会には、必ず鹿野さんがいらしてくださいり、その自治体の長をはじめとする方々に紹介いただき、それぞれの地域「九条の会」を結成するうえで、とても大きな力になってきました。

こうした中で、宮城県の自治体の長のみなさんの「九条の会」を設立し、「東北6県市町村長九条の会」の組織化へ、鹿野さんは全力を尽くされました。この運動の経験を生かして、2019年に「全国首長九条の会」の立ち上げの中心となり事務局長を務めました。

心よりご冥福をお祈りします。

全国首長九条の会共同代表

みやぎ憲法九条を守る首長の会会長

川井 貞一（元宮城県白石市長）

全国首長九条の会事務局長・みやぎ憲法九条を守る

首長の会筆頭副会長鹿野文永さんが急逝された。

5月17日の通夜に出席した。葬祭場に着いて、すぐ鹿野さんと対面した。その死に顔は仏のような慈顔であった。

鹿野さんとは足掛け40年の交流があった。その中で知った彼の政治哲学は自らの使命は命を賭して市民の生命と安心を守ることだった。この哲学をもって鹿野さんは鹿島台の町長として治水に専念し、後半20年は憲法9条を死守し、改憲を目指す輩と死闘しつつ平和を守ったのである。

鹿野さんが31年にわたって町長を勤めた鹿島台町はわらじ村長と呼ばれた鎌田三之助翁が干拓された旧品井沼が低地であり、町の東部に鳴瀬川、南に吉田川が流れ、両川の合流の関係から旧品井沼の低地には鳴瀬川の逆流による洪水が発生し、鹿野町長在職の31年間は洪水との戦いだった。それは反面、宮城県との戦いでもあった。

鳴瀬川の破堤洪水を防ぐために鳴瀬川総合開発計画が立案され、支川の筒砂子川にダムを作る計画が出来た。丁度細川内閣が出来、ダム無用論が盛んに主張されたころである。

当時の宮城県知事がその風潮に乗って筒砂子ダム建設の中止を声明した。

その説明会に県の土木部長と河川課長が出席した。私は当時、宮城県の治水協会の会長として出席した。数百人の市民が傍聴する中で、建設省から出向してきた土木部長を相手にして鹿野さんは理路整然と筒砂子ダムの必要性を主張する。部長たちは受けきれなくなつたが、知事の命令である。ダムを作りましょうとは言えない。議論は打ち切りとなつた。

説明会の後鹿野さんは筒砂子ダムの必要性を粘り強く主張し、地元の代議士等に陳情したがもはや野党になった自民党の国会議員は役に立たなかつた。最後に鹿野さんの粘りが勝利した。平成22年国土交通大臣から宮城県知事に鳴瀬川総合開発の見直し計画が命令されて筒砂子ダムの建設は再生した。

首長の会は宮城では2008年2月に、秋田では2008年8月に結成された。宮城では山元町の森久一町長が『川井は全国市長会の副会長を、鹿野さんは全国町村長会の副会長を務めている。二人が揃えば全国首長九条の会も夢ではない』と発案、鹿野さん、森さん、松村さん（七ヶ宿元町長）と私が時々協議を重ねて作り上げていった。秋田は千田謙蔵さんが中心となって作り上げ、秋田と宮城は何回か話し合いを持った。千田さんは東北6県市町村長九条の会連合の名付け親で、千田さんと私が共同代表を、鹿野さんが幹事長となつた。

しかし九条は世界の宝との信念をもって関東から東北を駆け回った鹿野さんの動きを詳述するには与えられた頁数が少ないので省略する。

最後に一言。鹿野さんを5月17日（通夜）に見た、まるで仏のような慈顔、あれが市民に対する鹿野さん

の心だろう。そして市民から平和を取り上げようとする輩には阿修羅となって戦う人であった。

事務局次長 元東京都国立市長 上原公子

大きな柱を失ってしまいました。ロシアの傍若無人に戦争へ突き進む今こそ、「全国首長九条の会」の出番だと思っていただけに、突然の訃報はあまりにも大きな衝撃です。

鹿野さんとは、2012年に「脱原発をめざす首長会議」が発足してからのお付き合いでした。脱原発の会議、勉強会に必ず参加され、寡黙だけどとにかく熱心な方でした。

その鹿野さんの呼び掛けで「全国首長9条の会」は発足し、鹿野さんの熱い思いに引っ張られて会の活動が進んできたと思います。当会の事務局長の責を果たすために、事務局会議には早朝に出かけ、東京での会議が終わるとすぐに帰路に就くという強行軍をこなされていました。2006年に鹿島台町が大崎市に合併されるまで31年の長きにわたり鹿島台町長を務められた鹿野さんは、任を離れて一層平和実現のために働かれていました。文字通り命を削りながらの活動でした。

鹿野さん、あなたのお陰で日本中に平和の声を発信できるようになりました。あなたの熱い思いを私たちはしっかりと繋いでいきます。心からの感謝と本当にお疲れ様と申し述べて、悲しいですがお別れします。

合掌

（鹿野文永さんのご逝去を悼む）

巨星墮つ

元茨城県東海村長 村上 達也

1970年ドゴールが逝った。朝日新聞トップ見出しへ確か「巨星墮つ」か「巨樹倒れる」だったか。「鹿野さんご逝去」の報を受け浮かんだ言葉はそれでした。鹿野さんは風貌そして識見からして正しく巨星、巨樹であります。だが人格、識見はドゴールとは遠い「民衆側に立ち権力に抗って止まず」というものでした。それが8期もの鹿島台町長在籍、全国に先駆け東北の地に「首長九条の会」を生んだ由縁でしょう。

2013年5月鹿野さんに招かれ、「旧鹿島台町9条の会設立総会」で僭越にも私は「ターニングポイント一改憲と原発」と題して話をさせてもらいました。会は鹿野さんを慕う300名余の会員で盛会でした。当時脾臓がんで臥せていた妻を一人残し旅に出るには躊躇いたしましたが、鹿野さんの町と住民を見たくて出掛けました。ちょっとでも目にでき、お粗末ながら一役買えたことは大事な思い出です。

最早聲咳に接することは叶いませんが、鹿野さんは憲法9条と共に永遠です。出会えたことは私の宝です。ありがとうございました。